

# 品川支部

令和元年6月1日発行  
〒141-0022  
品川区東五反田1-8-5  
Tel. 3442-7075

## 6月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

## 三年に一度の 新任支部長会

第三食堂で表頭領のお話につき、大小三箇所の支部からピックアップされた支部長、元支部長が壇上でパネルディスカッションし、支部活動のヒントになるよう進められる。参加者は支部長と各支部もう一名の600人以上の会になる。最後には自分の使ったイス機の片付けひのきしんでお聞きとなる。今回は特にインターネット等IT活用の話が多かったようです。いずれにしても新任の先生に期待です。



支部長会場

### ☆支部行事のお知らせ

・支部例会六月三十日(二頁参照)

・神名流し

一日(土)十時から、大井町駅前にて

・在宅センターひのきしん

六月二十八日(金)午前九時半〜十一時

・教区ひのきしん

担当は本品組ですので宜しくお願い致します

### ☆教務支庁からのお知らせ

・教区・支部役員改正

前任者が三年の任期を終え、四月から新たに役員等の改正が行われて活動が開始されました。教区内では三十三支部中、初めて支部長になられる先生が十四名と、支部長会のメンバーが大幅に変わりました。

品川支部は、支部長以下殆どの役職の方が再任して頂く事になりましたが今回、婦人会の支部主任を昨年十月から水豊田奥様、石田ゆきさん。会計を豊英奥様、栗原房枝さん。今年四月から青年会支部委員長に都南、西海翔太さんが勤めて頂くことになりましたのでおしらせ致します。

・カルト集団に引き込まれない為に

毎年この季節は学校等で新入生をターゲットに占いや、超常現象で興味をそそりクラブ勧誘等で引き込むケースが後を絶ちません九日は判り易い解説をして頂きます。教務支庁

### ・女子青年からのお知らせ

十一月三日に 第二十九回女子青年大会が催されます。

現在各直属での準備活動が活発に行われております。この流れを支部の女子青年活動にも反映させていきたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

・婦人会からのお知らせ

昨年四月十九日婦人会第百回の節目の総会に続き、来年同日には婦人会創立百十周年の総会が執り行われます。全国で決起大会が行われる中

これに向け支部内では今月十六日 本荏大教会で十三時から二十三時 日本橋大教会十三時で『決起大会』を催します。対象の年齢にかかわらず多くの方の参加をお願いいたします。

### ・天理時報品川支部記事

天理時報五月十二日号の二頁の全教一斉ひのきしんデーに『五輪の競技会場周辺で』という欄で品川支部が取り上げられました。

同時に四頁には、豊英所属の石塚さんの「木工職人の腕を生かして」という記事も掲載されました。

記者の方は手配り率95%以上の支部と言うことでも、注目されたようです

拠点教会	2日号	9日号	16日号	23日号	30日号
日本橋	手配り	手配り	手配り	手配り	手配り
本 荏	手配り	手配り	手配り	手配り	手配り
都 南	手配り	手配り	手配り	手配り	手配り
三ツ木	手配り	手配り	手配り	手配り	手配り
水豊田	手配り	手配り	手配り	手配り	手配り

時報手配り六月予定

# 品川支部例会

## 令和元年6月30日 (日) 11時開始

### 場所 本大崎分教会 (品川区大崎三丁目17-3)

#### 内容 おつとめ よろづよ八首 六下り目 東京教区、支部連絡事項 当該教会長三輪先生 挨拶 昼食の用意頂いてます \*各教会の方のほかどなたでも (白足袋ハッピー着用)



### 私の信仰



私は19才の時に専修科に入学しました。2年間通るには、まず心定めをしました。2年間、朝勤め5分前には遅れる事無く、卒業まで皆勤で通らせていただくとうと決心したのです。

それは2年生の9月の野球大会の時、自分はサードの守備についていました。バッターが打った打球が、キャッチャーとサードのちょうどまん中あたりに飛んだのです。お互いにボールに向かっただけで行ったのです。ただボールだけを見ていて、相手が見えませんが、キャッチャーの選手の肩口と自分は顔面で衝突したのです。メガネで目の横を切り、救急車で穂の家に運ばれたのです。

目の中にレンズのかけらが入っていないかを検査した結果、入っていませんでした。顔面は腫れあがり、鼻の高さも無いぐらいでした。診察を終えて詰所の自分の部屋に戻って来てベッドで休んでおりました。全治3週間と診断されました。自分に残りの半年をしっかり通って姉と同様に卒業式の当日真柱様からおつとめを着頂戴できるものと思っておりました。この時の自分の思いは、卒業したら社会にでてバリバリ仕事をするんだと考えていたのです。明くる日、詰所にて担任の安井幹夫先生がおさづけの理を取り次いでくださりました。そして、三日目におさづけの理を取り次いでくださり、まるで自分の心を見済ましたように、卒業したら社会に出て働くのか、お道を通るのかと聞くのです。

お道を通らせていただき、またと何故か答えてしまったのです。お道を通る者が3日寝たらだめだ、明日から専修科に来いと言われるのです。顔面は腫れたまま、翌日から登校したのです。ここにつかんだのです。

(3-41)

かりものという理が心に治まれば、どんな中でも、かりものという理、ひとつ心に治まれば、ない寿命もつないでくださるので。ひとつの身上を通して、我が魂の運命を切り替えてくださるのです。日々常々、誠の心で通らせていただく事が大事なのです。そして、喜び多く、しっかりと御恩報じにつとめさせていただくのです。

この身体は親神様から借りてあることを忘れず、一日一日有りがたい、結構やと通らせていた。その心で通らせていた。なかでも大難は小難に、小難は無難におつれ通りくださる。日々、ありがたい、結構やと通らせていた。ただ、結構やと通らせていた。ただ、結構やと通らせていた。

